

## 平成29年度 第1回匝瑳市総合教育会議 会議録

- 1 日時 平成29年11月22日(水)  
開会 午後3時00分 閉会 午後3時45分
- 2 場所 授業参観 匝瑳市立八日市場小学校  
会議 匝瑳市役所議会棟2階 第三委員会室
- 3 出席者 匝瑳市長 太田安規  
匝瑳市教育委員会  
教育長 二村好美  
教育長職務代理者 平山孝雄  
教育委員 熱田とし子  
教育委員 大木睦子  
教育委員 伊藤博之
- 4 議題 豊かな心を持ち、気付き、考え、行動できる子どもの育成  
「体験活動と関連させた道徳の時間における指導を通して」
- 5 会議概要

### 学校教育課長

ただいまから「平成29年度 第1回匝瑳市総合教育会議」を開会いたします。  
はじめに、太田市長より御挨拶申し上げます。

### 太田市長

本日はお忙しい中、「平成29年度第1回匝瑳市総合教育会議」に御出席をいただき、ありがとうございます。

また、前段の八日市場小学校での授業参観、お疲れ様でした。

この総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、地域の教育の課題やあるべき姿を共有し、相互に連携して教育行政を推進していくため、設置されたもので、今年度で3年目を迎えました。

さて、小学校では、来年度より「特別な教科 道徳」が実施となり、8月には新しく使用される教科書が採択されました。

教育委員会や学校現場でも、その準備におわれていることと思います。

匝瑳市では、本会議におきまして「海・みどり・ひとがはぐくむ 活力あるまち 匝瑳市」を目指した「匝瑳市教育大綱」を策定し、その中で心の教育の推進は重要な取組として位置づけているところです。

今回の総合教育会議では、昨年度に引き続き、これからの道徳教育をテーマに、教育委員の皆さんと協議を進めていきたいと思っております。

今回は、ビデオではなく実際に授業を参観いただいたので、より一層これからの道徳の授業のイメージがつかめたことと思います。

今回、皆さんとの協議を通し、匠瑳市の教育のさらなる充実に向け、ともに努力をしていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

#### 学校教育課長

続きまして、匠瑳市総合教育会議運営要領第3条第3項に基づきまして、議事録への署名人を選出したいと思ひます。

#### 構成員1

二村教育長にお願いしたいと思ひますが、いかがでしょうか。

#### 構成員

全員 「異議なし。」

#### 学校教育課長

それでは、二村教育長に議事録署名人をお願いします。

次に、これより協議に入ります。

議長につきましては、匠瑳市総合教育会議運営要領第2条の規定により、太田市長にお願いします。

#### 議長

それでは、協議事項1「授業参観後の感想について」です。

先ほどご覧いただきました八日市場小学校の道徳の授業について、率直な御意見や御質問などがありましたら、お願いします

#### A委員

私は3年生の授業を中心に見学しましたが、子ども達は大変熱心に授業に参加していました。

先生方が工夫して、子ども達が頑張れるような言葉かけをしているからであり、良好な関係ができていると感じました。

また、授業展開の中で、ウェビング(※1)を取り入れた授業を行っていましたが、ウェビングは広がりがあり、子ども達にとっては、考えをまとめる時に少しわかりにくいのではないと思ひました。

授業の中で、「目の不自由な方がいた時、声をかけるかかけないか。」ということについて話し合いをしていましたが、「知らない人には、怖いので声をかけない。」という意見がありました。

世相を反映しており、子ども達の心を育むには水を差すような世の中であると思ひました。

福祉の体験を生かすということで、道徳は授業の中だけではなく、学校生活全体の中で学んできたことを集約し、価値につなげていくという時間なのですが、福祉の体験がよく生かされていたと感じました。

ただ、福祉というと障害者の方というイメージが子ども達の中にあるようなので、もっと親切という価値に近づくためには、障害者の方だけでなく、もっと親切を一般化できるような場面があるといいと思ひます。

本日、この展開に至るまでにいろいろなアイデアが出たと思いますが、何通りものアイデアが出て、その中でこれを選ぶに至ったプロセスみたいなものが、これからの道德の授業をしていく上で、先生方にとって財産になると思いつながら参観しました。

## B委員

ウェビングについてですが、今日行った手法は、教師が中心になって展開するもので、先ほどA委員が述べたように、その時に発散していく、枝が広がっていくのはいいが、それがこの児童にとって、「自分のものがどこに位置づいているのか。友達とのかかわりがどうなっているのか。じゃ、同じなんだ。」というまとまりを教師がするのではなく、子ども自身にさせない限り、自分の思惑、考えそのものの広がりが出てこなくなってしまうのではと残念に思いました。

もっと子ども自身の考えが活かされる方法、たとえば子どもが書いたものを黒板に貼り、それを動かしながらまとめていく、そういうやりの方が子ども達の考えが膨らんでいくと感じました。

## C委員

ウェビングに関して、先生方は非常に苦労して子ども達の意見を引き出そうとしていたと思いますが、まとめるには時間が足りないように感じました。

## B委員

A委員が述べたことに関連して、子ども達の反応、教師と子どものかかわり方、それぞれのクラスがこれまでに養ってきたものが今日の授業に表れていたと強く感じました。

狙いが非常に明確で、それがわかりやすい授業展開になっていたのではないかと思います。

1年生と3年生のテーマが親切と思いやり、5年生が規則ということで進めていましたが、指導はなかなか思い通りにいかないと思います。

しかし、かなりそれに対して努力をしている様子が、子ども達の反応に表れていたと思います。

特に1年生を見ていると、純粹で自分の思いを素直に表現している、それはこれまでの学級経営にあると思いますが、非常にのびやかに発言できる、自分の考えをまとめている、そういう点で大変すばらしいものがあつたように思いました。

立場を変えて考えるということで、今日は低学年の授業で役割演技というものを取り上げていました。

これはとても効果的であると思いますが、途中抜けて他の学級を参観したので、どういう風に展開したか具体的にわかりませんでした。

しかし、役割演技というのは、これからの道德の授業の中で、有効に生かすひとつの手法であると思いました。

いずれにしても、仮設1と仮設2の体験活動を効果的に生かすというのは、単に読み物教材だけではなくて、これまで子ども自身が学習してきたことを生かしながら、道德の授業に取り入れるということは、自分を振り返るということにもなるし、今後の自分のあり方を展望していく上でも、ひとつの仮説としては有効な方法であると思いました。

それから、児童の実態にあつた話し合いということで、役割演技、ウェビング、さらにもっといろいろな方法があると感じました。

## D委員

今、B委員が述べたように、意見交換の場を設定すると、たくさんの意見が出やすく、相手の反応が即座にわかるので、相対するような場面をたくさん作ると良いのではないかと思います。

## E委員

今年で八日市場小学校の道徳の研究は4年目になりますが、ウェビングの導入は、講師である土田教授の指導の方向性ということで、昨年度から導入したのだと思います。確かに、メリット・デメリット、それぞれあり、みなさんの感想の通りだと、私自身も思います。

自由活発にそれぞれが自分の思いを述べられる、いわゆる積極的に授業に参加できる場面設定としては、非常に有効だと思います。

ただもう一方で、道徳の大切さというのは、いかに自分の道徳的価値を理解して、人間性を高めていくかということだと思うので、そのような中で、さきほどのB委員の話の中にあつたように、自分の考えの位置づけ、自分の考えはこうであるという自己決定の場で、最初はこちら側の意見を持っていたが、いろいろな人の意見を聞いているうちに自分を修正し反対側の意見に変わる、そういうことこそが道徳の目標に迫るものではないかと思っています。

ウェビングはいい面があるけれども、そういう意味で一人一人個に返すという部分では、非常にまだまだ研究の余地があるのではないかと思います。

ただ子ども達は、緊張の中にあつてものびやかに、低中高それぞれの学年の特色がよく表れた授業だと思いました。

## 議長

道徳の授業を参観して、いろいろな想定をした中で、たくさんの教材を使用して授業を進めており、その割に時間が少ないのではと感じました。

道徳の授業は、毎週あるということなので、それならば充分生かせるのではないかと思います。

本日の授業は、もう少し時間をとつても良いのではないかと感じました。

## E委員

実際、盛り上がれば盛り上がるほど、時間が足りないと感じると思いますが、場合によっては2週にかけて、実施することもできると思います。

ただ、それには計画的にカリキュラムを組んでいかないとできませんので、読み物であれば事前に読んでおくとか、映像であれば見ておくとか、そのような時間の工夫が必要であると思います。

## 議長

先生方が、子ども達の考えをどう引き出すか、教師の姿勢が重要であると思います。

## E委員

道徳は子どもと教師の人間関係や、普段の学級の雰囲気重要です。

ですから、教師の指導力というのは授業力以前のものが大きいと思います。

## 議長

今日の授業参観の感想ということで、反省点もあるかと思えます。

道徳の授業を通して、よりよい方向に反映するよう期待したいと思えます。

構成員の皆様からは、子供たちや先生方への励ましの言葉も含めまして、たくさんの御意見、御感想をいただきありがとうございました。

続いて、協議事項2「匝瑳市のこれからの道徳教育に期待すること」です。

先ほどの協議事項1の内容を踏まえての協議になるかと思えますが、ここでは本日配付しました資料と、八日市場小学校の全体会資料の4ページの中ほどにある内容が参考になるかと思えますので、これをもとに御意見をいただければと思えます。

## B委員

道徳教育の中で、いくつか絞っていかないと難しいと思うのですが、今子ども達に何が欠けていて、それをどのように学習したら良いのかというところから触れてみたいと思えます。

八日市場小学校の道徳のアンケート調査結果を見ると Aが自分自身に関する事、Bが人との関わりに関する事、これらについては、初年度と29年度と比較すると、すべての学年において向上しています。

逆にCの集団や社会との関わりに関する事については、6年生の数値が下がっていて、Dの生命や自然、崇高なものとの関わりについては、すべての学年が下がっている。

その価値項目というのは、小学校の場合、最大22項目あり、すべての項目について触れなければいけないと思うのですが、その中でも重点を置きたい点として、このグラフの結果から、たとえば、Dについては下がっている学年が多いということで、正直CとDはどちらかという抽象的で、内容も難しいと思えます。

具体的には、生命の尊さとはどういうものなのかということですが、今いじめ問題が非常に増えています。

そうすると、生命の尊さを核にしながら自分と人との関わりの中で、生命を大切にしていこうというような道徳性が、今後大事にしていかなければいけない点だと思えます。

それから、5年生が規則の尊重をテーマにしていますが、授業の中で決まりは決まりだからという言葉が子どもの中で多かった

これは非常に関連的なものですから、そういうものを切り崩していかなければ、今日の規則ということ学習した価値も出てこなくなります。

ただ、生命とか規則とか、考えれば考えるほど難しい問題ですから、子どもというのはそれに対して、もう一度考えてみようと思っても嫌になってしまいます。

ですから、こういう結果になってしまったのかなと思えます。

私なりに道徳性というのをまとめると、いじめの発生件数が千葉県では3万1千件、3年連続ワースト1ということで、非常に問題であり、今日行った親切・思いやり・感謝、さらには生命の尊さとか、そういうことについて、22項目ある中でも特に重点を置いて取り組んでいく必要があると、価値項目として感じました。

## A委員

匝瑳市で道徳研修会を設定して指定しているということは、市の道徳の充実につながっていくと思えますので、今後もこの指定を続けていただきたいと思います。

それから、道徳の指導は担任が行いますので、各学校には担任を持っていない先生もいると思います。

担任を持つことになった時に、ある程度授業ができるように、担任以外の先生もその力をつけていくことを考えていく必要があると思います。

中学校の場合には、教科ごとに活動することが多いので、道徳を研修の中心にすることによって学校が一つになるのではないかと、自分自身道徳の指定を受けて研究をしていく中で感じました。

それから、今日の授業で活用した資料の保管とか、活用とか、貸し借りとか、1回で終わりにするのではなく、いろいろ工夫を加えながら活用していくことが大事であると思います。

議論する道徳ということで、多様な考え方、感じ方、出会いを交流すると書いてありますが、議論というと意見を発表するところをイメージしがちですが、中にはおとなしい子がいて、意見を言うことが苦手という子もいると思います。

でも、たとえば書くことは出来るという子もいるので、その多様な考えの交流の場が、授業の中での発表だけではないということ、おとなしい子が書いたものをどうやってみんなに伝えるかとか、常に子どもの考えがわかるよう掲示物を工夫するとか、いろいろな子どもがいるので、そういうことも教師の方で考えていく必要があると思います。

#### 議長

今のA委員の意見の中で、道徳あるいは心の教育について、引き続き重点を置いて取り組んでほしいとの要望事項でありますので、これらについて、行政としても、運用性を高めるための指針という形で、進めていきたいと思えます。

今の話の中で、担任を持った先生方が中心となって授業を進めていくということですが担任を持たない先生も、同じような形で勉強する機会はあるということなので、先生方全員の指導力が高まるような環境づくりに努めていきたいと思えます。

#### E委員

今、A委員の意見にもありましたが、事前準備はかなり大変であると思えます。

本日の教材の「からあげ」一つにしても、前の黒板に貼ったかわいい子供の表情の絵、そういった資料を大切に保管しておく、先生方の間で別のクラスの授業で借りてやってみようとか、そういうことで負担軽減がかなり図れると思えます。

また、その授業を見て、自分なりに今度ぜひやってみようという意欲改善にもつながると思うので、資料の蓄積は非常に大切なことだと思えます。

それから、道徳の授業は安心できる学級だと中学生でも自由活発に発言ができます。

道徳というのは間違った答えというものはないので、子ども達は安心して発表できるため、道徳の授業が好きになり、もっとやりたくなる。

普段授業が苦手な子でも、自己肯定感、みんなに認めてもらえる、そういった場もあるので、道徳はそういう意味で非常に人間性を高めるには良いと思えます。

中学校でも、どんどん取り入れています。

#### B委員

考え、議論するということで、今日の実際の授業と照らしあわせると、自分の考えがまとまっていないのに、子ども達は思いついたことをつい口に出して議論してしまいがち

になります。

今日の1年生の役割演技の中で、失敗してしまった子に対して「なんだよ。」と言ってしまい、すると相手が「ごめんね。」と謝ったり、しょぼんとしたのを見てどう思うかと聞いてもすぐ答えられなくてあたり前だと思います。

もう少し、一人一人に考えをまとめる時間を持たせてあげる、それにはさきほど出たように、頭の中で整理できる子もいれば、実際に書いてみないとなかなか言えない子もいます。

自分の考えをはっきりとさせる場を明確に位置づけてやることにより、次の段階として、お互いに話し合おうとか、議論するところへ導くことができる。

つまり自分の考えがしっかりしていればいるほど、意見が出てきた時に、「あの意見は自分と同じだ。でもあれは違うな。」というような見極めができてくると思います。

考え議論するのは、決して道德だけに限りませんが、いわゆる自分の変容というか、子ども達の変容を期待するためには、自分の考えを明確に持たせること、それをどのように表現すれば相手に伝わるか、実際に議論させる場を持たせ、今言ったような手順を踏んでいかないと、言葉だけが先行してしまうのではないかと気になりました。

## 議長

私もそういった機会をどんどん増やしていくことが大事だと思います。

## D委員

今日のような公開授業を通して、先生方がとても熱心に道德の授業に取り組んでいる様子が伺えました。

子ども達もはっきりと自分の意見を発表する中で、相手の心を思いやったり、いろいろ考えて共に成長していく機会がたくさんあり、もっと道德の授業時間が必要かなと思いました。

## C委員

匝瑳市のこれからの道德教育に期待することですが、いじめの問題は目に見えない、表に出ていないいじめのある可能性もあります。

その辺については、学校はアンケート調査を実施していると思いますが、なかなか記入できない状況もあるので、各学校で工夫して、道德教育で取り上げていただければと思います。

ある高校では、保護者からもいろいろな意見が伝えられるよう、校長先生への手紙というものを取り入れています。

子ども達だけではなく、保護者の意見も伺うことにより、いじめ問題対策につながるのではないかと思います。

## 議長

道德教育の向上ということで、毎回の指導とともに、アンケート調査を実施することも大切であると思います。

なかなかアンケートというの、記入しにくい部分があると思います。

今までのアンケート調査ではいじめはなかったのに、事件事故が起きてから再度アンケート調査を実施すると、いじめがあったというケースが多い気がします。

## E委員

実際、匝瑳市内の小中学校では、月1回はアンケート調査を実施しています。

その中でも、かなり小さいものでも定例教育委員会で報告していますが、なかなか正直に書く勇気がないというのも否めないかと思います。

ですから、アンケート調査だけでは安心できない、教師の観察の目も大事です。

その他の対策として、教育相談の実施や誰でも自由に投函できる相談箱というものも校内に設置しています。

## C委員

道徳教育の中で、いじめ問題に対してもっと深く議論できればいいと思います。

## E委員

たとえば、この授業を通じて、先ほどB委員からも出ましたが、人の痛みや心情的に迫るもの、そういったものを多く深くやっていく必要があると思います。

実際、今回の道徳の教科化は、大津のいじめ問題に端を発して始まったものですので、これは欠くことのできないことですし、これだけやれば安心ということはないと思います。

## C委員

先ほどE委員が言いましたが、普通の授業だと答えが決まっていますが、道徳の授業は答えが決まっていないので、みんな発言しやすいと思います。

## B委員

具体的には、授業の組み立てというところで、八日市場小学校のようにウェビングを取り入れたり、役割を決め演技したりするという手立てを効果的に位置づけし、それをどのように考え、議論する道徳につなげていくか、実際にやってみて、ウェビングがうまくいかなければ、切替えて違う手法に替えるのも良いのではないかと思います。

実際に行ってみないと成果があるかわからないが、八日市場小学校のような取組を見てその良さを吸い上げ、自分の授業に生かしていくよう心がけると、匝瑳市の道徳教育がより良いものになっていくと強く感じました。

## 議長

その他に意見はございますか。

ないようですので、続きまして協議事項3「その他」でございしますが、何かございしますか。

## 構成員

全員「ありません。」

## 議長

ないようですので、以上で協議を終了いたします。

構成員の皆様からは、多くの示唆に富む御意見、御感想をいただきありがとうございます。

匝瑳市といたしましても、皆様からいただきました御意見を参考に、今後も心の教育の一層の推進に努力してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。  
長時間にわたり、御審議いただき、ありがとうございました。  
それでは、進行を事務局へお返しいたします。

#### 学校教育課長

御協議ありがとうございました。  
ただ今いただきました御意見等は、「匝瑳市総合教育会議会議録」としてまとめ、匝瑳市ホームページで公表したいと思っております。  
それでは、以上をもちまして「第1回匝瑳市総合教育会議」を閉会といたします。

#### ※1 「ウェビング」とは

あるテーマを設定し、個々人の経験や興味・関心に基づいて、そこから派生するあるいは関連するものを蜘蛛の巣(Web)状に図式化して表現する手法